

市長	比田勝尚喜君
副市長	桐谷 雅宣君
教育長	永留 和博君
総務部長	有江 正光君
総務課長	松井 恵夫君
しまづくり推進部長	阿比留勝也君
観光交流商工部長	俵 輝孝君
市民生活部長	根メ 英夫君
福祉保険部長	仁位 孝良君
健康づくり推進部長	福井 順一君
農林水産部長	西村 圭司君
建設部長	佐伯 廣教君
水道局長	大浦 展裕君
教育部長	須川 善美君
中対馬振興部長	平山 祝詞君
上対馬振興部長	園田 俊盛君
美津島行政サービスセンター所長	神宮 喜仁君
峰行政サービスセンター所長	佐伯 正君
上県行政サービスセンター所長	多田 幸喜君
消防長	永留 弘和君
会計管理者	阿比留 保君
監査委員事務局長	小島 勝也君
農業委員会事務局長	庄司 智文君

---

午前10時00分開議

○議長（小川 廣康君） おはようございます。

ただいまから議事日程第2号により、本日の会議を開きます。

---

**日程第1. 市政一般質問**

○議長（小川 廣康君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は4人を予定しております。それでは、届け出順に発言を許します。1番、坂本充弘君。

○議員（1番 坂本 充弘君） おはようございます。1番議員、新政会の坂本充弘でございます。

まず初めに、記録的な豪雨に見舞われた九州北部の皆様へ、心からお見舞いを申し上げます。お亡くなりになられた方々に、御冥福をお祈りいたします。

私は、去る5月に執行されました対馬市議会議員一般選挙におきまして、多くの市民皆様の御支援をいただき、初めての当選をすることができました。心から感謝申し上げますとともに、この場をおかりし厚くお礼申し上げます。

6月からの1期4年間、市民皆様の御意見を賜りながら、議員活動に取り組んでまいりたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

また、議会も、小川議長、上野副議長、各委員会の委員長も決定し、新体制がスタートしております。対馬市発展のため、公正な議会運営に取り組んでまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

質問に入る前に、2点、お礼を申し上げます。

8月に、厳原港まつり、上対馬でおっどん祭りが開催されました。開催に当たられた関係者、スタッフの皆様、準備から片づけまで大変だったと思います。本当にお疲れさまでした。

また、8月20日には子ども議会が開催されました。将来を担う中学生が、子供たちの目線から発想される夢と希望に満ちた質問や提案は、大変すばらしい内容であったと感銘を受けた次第でございます。子ども議会の開催に御尽力いただきました学校関係者の皆様、保護者の皆様、そして理事者の皆様方にお礼申し上げます。

多数の要望や提案等がございましたので、市長におかれましては真摯に受けとめ、実現できるものがあれば実行に移していただければ幸いです。来年度以降の開催もお願いいたします。

それでは、通告に従い、質問に入らせていただきます。本日は、4点の質問を予定しております。

まず、1点目でございます。一般県道比田勝線（西泊工区）道路改良工事について質問させていただきます。

地元西泊地区では、平成20年ごろから陳情がされているところでございます。古里地区の3差路から西泊地区の大石建設事務所までの県道で、道路の幅員が狭く、歩道もない状況です。

御承知のとおり、西泊地区内には漁協や漁連、水産業者等の車両を多く保有している事業所があります。また、運送会社の大型トラックが頻繁に通行しており、定期バスも走っております。近年、韓国からの観光が急増し、バスやレンタカーの台数も増加しております。

このような中で、通勤・通学の車両、歩行者と自転車も往来し、非常に危険な状況が続いております。大型車両同士が離合するときは、どちらかがバックしなければならない場合があり、時間がかかるときもあります。

この区間については、県議も視察に来られていると思いますが、いまだに着工されていません。現在までの状況と今後の着工見通しについてお尋ねをいたします。

それから、二、三日前の11日の大雨で、古里の3差路が冠水をしております。これは側溝の能力が足りないと思いますけれども、この点については通告をしておりますので、調査の上、後日、取り組んでいただきたいと思います。と思っています。

2点目は、比田勝港古里地区の岸壁の整備についてということでお尋ねいたします。場所は、日新商会の前付近でございます。

比田勝港は、対馬北部の玄関口として機能の充実を図るため、現在は港湾施設の整備が着々と進んでいるところでございます。比田勝港の近海は、一本釣り、はえ縄、まき網、刺し網漁業等の好漁場となっており、中でもイカ釣り、ヨコワ釣り漁の最盛期には、毎年、多くの外来漁船が入港し、対馬北部の漁業基地としてにぎわいを見せているところです。

現在、おっどん祭りの会場となっているところは埋立てられ、その前は和歌山県を初め数百隻の県外船が入港しておりました。近年、ヨコワ漁は低迷し、現在はクロマグロの規制もあり、ヨコワの県外船は入港しておりませんが、イカ釣り漁船は漁時期になると、島外島内を含め60から70隻のイカ釣り漁船が入港してきます。経済効果も上がるわけですが、漁船を係船する場所が少ないわけです。

そういうことで、岸壁の整備について計画がされていると思いますが、進捗状況と今後の見通しについてお尋ねをいたします。

3点目は、西泊海水浴場の休憩所、これは屋根つきでございますけれども、その設置について要望としてお尋ねをいたします。

ことしも気温の高い炎天下の日が続きましたが、監視員さんの話によれば、海水浴に来ていた人が熱中症となり、具合が悪くなって帰られたそうでございます。

前回の一般質問で、春田議員から、プールの建設計画はないかということで質問がありました。整備できればいいわけですが、なかなか難しい状況のようでございます。そういうことで、やはり海水浴場を利用することになるわけですが、この海水浴場には日陰になる屋根つきの休憩所がないわけです。

それで、西泊海水浴場の案内板をよく調べてみますと、グラウンドのほう側に休憩所と書かれているわけです。その建造物は中央だけが小さい屋根があって、両側の頭上には角材が間隔をあけて使っているわけです。

後で尋ねますと、これは藤棚になっているということらしいです。現在、藤はありませんし、日陰ができておりません。そして、その角材は腐食しております。ここは潮風が強くて、育たないと思うのです。今までにも、藤などの植物があったという記憶もありません。

ことはもう海水浴のシーズンが終わりましたが、よく調査をしていただいて、来年のシーズンまでには設置をしていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

4点目は、ジェットフォイルの混乗問題についてお尋ねをいたします。この件につきましては、市長も第2回定例会の挨拶の中で報告をされました。

以前は、九州郵船のジェットフォイルが比田勝港から出港し、厳原港、壱岐を経由し、そして福岡へとつながる航路があったわけです。現在、この航路は廃止されたままになっております。韓国釜山市と福岡市を結ぶ国際航路における混乗の実現は、北部市民の生活利便性の向上につながる悲願でございます。

3月には、九州郵船株式会社、JR九州高速船株式会社と対馬市の三者で、この計画を実現させるための協定書が取り交わされたと報告がありました。5月下旬には初の三者協議が始まったと聞いておりますが、2回目以降の三者協議は開催されているのでしょうか。その後の進捗状況と今後の見通しについてお尋ねをいたします。

以上、4点についてお尋ねをいたします。必要に応じて、一問一答でお願いをいたします。よろしくお願ひいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おはようございます。坂本議員の質問にお答えいたします。

初めに、一般県道比田勝港線の道路改良計画につきまして、議員御存じのとおり、古里3差路から西泊地区を結ぶ路線で、延長約1,360メートルのうち、古里3差路から約480メートルが未整備のまま、現在に至っている現状でございます。生活経済道路として、近年では観光道路として、重要な路線であると認識をしております。

本路線は、平成3年から8年にかけて整備され、その当時、一部地権者の同意が得られず、現在の区間が未整備の状況であると聞き及んでいるところでございます。その後、バス路線となり、現在は三宇田浜を回遊するルートとなっております。

また、上対馬町漁協が沿線にあり、朝夕には大型保冷車が頻繁に通行し、離合場所もなく、大変危険な状況にあることも存じております。西泊地区から要望も出されており、その都度、長崎県のほうへ要望活動を行ってきたところであります。

そのような中、平成25年6月の西泊地区と対馬市の合同要望により、事業実施に向けた回答をいただき、平成27年度より着手し、平成31年度の完成を目指している中、現在、測量、調査、設計等が終了している状況でございます。

今年度、家屋、倉庫等の移転物件が多数あり、今、移転補償の交渉中であります。今後、道路用地の取得及び移転補償等の進捗状況に合わせて、工事に着手する予定であります。

早急な工事着手、完成が望まれていることは十分認識しているところでございますが、今後も

県への要望を継続的に行ってまいりたいと考えております。

次に、2点目の比田勝港古里地区の岸壁整備についてでございますが、比田勝港は北部対馬の玄関口であり、中心地であります。物流、人流の拠点港であり、避難港及び周辺漁場の基地港として、地元漁船はもとより、多くの外来船が往来しております。

比田勝港は、昭和27年5月に長崎県管理港湾となり、この間、道路、物揚場、岸壁、護岸、防波堤など、着々と整備が進められてきました。近年の大きな整備といたしましては、平成25年10月に国内ターミナルの完成、平成28年1月には国際ターミナルが供用を開始しております。

御質問の古里地区の岸壁整備につきましては、外来船のイカ漁を主とした水揚げが、ここ数年、3億1,000万円から6億6,000万円と推移しており、大きなウエートを占めております。

外来船用の岸壁といたしましては、地区はもとより上対馬漁協からも要望があり、平成25年1月に上対馬漁協、対馬市合同で、長崎県対馬振興局長へ要望活動を行った経緯がございます。

現在、外来船対策用の係留施設として、マイナス3メートル、物揚場90メートル、アクセス道路20メートルが計画承認され、測量、地質調査が終了しております。

平成30年度には基本設計及び実施設計を予定しておりますが、現在、同時に国際ターミナルの岸壁の浮き桟橋整備等の拡充計画も進んでおりまして、予算枠獲得に向けて厳しい状況にありますが、今後も早期着手、完成に向けて、長崎県へ継続して要望を実施してまいりたいというふうに考えております。

3点目の西泊海水浴場に休憩所の設置でございますが、西泊海水浴場は長崎県が比田勝港海岸環境整備事業で整備されたもので、平成8年から供用開始された人工の海水浴場でございます。施設としましては、男女のトイレ、シャワー、更衣室などを備え、地元の方を中心に多い日で100名程度、海水浴場開設期間中の平均として、日当たり四十数名の利用があるところであります。

議員御指摘の休憩所についてでございますが、現在、テーブルと椅子のセットが1基設置された屋根つき休憩棟と、その両サイドにパーブラがございます。このパーブラにも同じテーブルが設置されておりますが、藤も植わっておらず、夏の強い日差しを遮ることは到底無理でございますし、一部破損している箇所もございます。

施設の設置者であります県からは、新たな施設の整備は厳しいとの回答でございますが、対馬市としましても、県から管理委託を受けておりますので、住民や観光客が安全に利用できるよう、この施設以外の海水浴場も含め、県に強く要望をしております。

最後に、4点目の比田勝港と福岡間のジェットフォイルの混乗便についての現状の報告と今後の見通しについてでございます。

比田勝港と博多港間の国際航路に国内旅客を乗船させる混乗につきましては、福岡市と釜山市を結ぶ国際航路に北部市民等の国内旅客を混乗させていただき、島民の生活利便性の向上と福祉の充実につなげることを目的として、実現に向けて取り組みを進めているところでございます。

議員より、これまでの詳しい取り組み状況について聞きたいということでございますので、過去の経緯から順を追って詳しく御説明申し上げます。

九州郵船のジェットfoil・ヴィーナスは、平成13年11月から平成21年11月まで、定期航路として比田勝港まで運航しておりました。その後、4年間は、乗船率が伸びないことから、年末年始、大型連休、お盆の繁忙期のみ臨時運航され、現在は運休となっております。

このことにより、対馬北部市民から比田勝港からの運航再開の声が上がり、ジェットfoilを運航させるための取り組みを進めておりました。

これまでの取り組みにつきましては、平成22年に九州郵船のヴィーナスで実証運航を行い、運航再開を検討していただきましたが、運航経費に見合う利用が見込めないことから、運航再開は実現いたしませんでした。このため、かわりに比田勝港に寄港している国際旅客船でありますJR九州高速船のビートルに、北部住民を乗船させる混乗の取り組みを進めることになりました。

国際航路である船舶に国内旅客を乗船させることは、国内客と国際客との混在により、病原体や有害物質の流入、麻薬等の危険物などの受け渡し等の問題が懸念されることから、なかなか進捗いたしませんでした。

そのような中、平成27年7月29日、太田前国土交通大臣が国境離島の課題解消に向けて本市の視察を行われた際に、前市長が大臣に直接北部の現状を説明されております。

その後、関係省庁との協議が必要であることから、秋野公造参議院議員が関係省庁と調整を図っていただき、平成28年3月の参議院予算委員会におきまして、博多港と比田勝港、韓国の釜山港を結ぶ国際航路への国内旅客の混乗の可能性について質問をされ、石井国交大臣から出入国管理などの問題が解決されれば可能であるとの答弁をいただいていることから、国際航路への混乗に向け、大きく前進することになりました。

このような中、平成28年7月28日に、福岡市におきまして「国境の島対馬を日韓観光の友好の場に」と題してシンポジウムを開催し、同年11月7日には、対馬市の混乗の取り組みについて、関係省庁に一定の御理解をいただき、石井国土交通大臣に実現に向けた要望書を提出しております。

平成29年5月29日には、九州郵船、JR九州高速船、対馬市の三者で協議会を立ち上げ、マスコミ発表を行うとともに、実現に向けた問題や課題を整理することとなり、現在まで協議を重ね、関係機関から指導を受けながら調整しているところでございます。

このことにつきまして、これまで協議は何回ぐらいしているかということでございますが、

9月4日現在で5回の協議を重ねているところでございます。

今後は、比田勝一博多航路のフェリーげんかいは、国の補助航路として指定を受け運航いたしておりますので、本航路を国庫補助航路として継続した上で、ビートルの混乗が実現できますよう、1つずつ問題、課題を解決し、混乗が実現できるよう、さらに国内旅客と国際旅客が混在しない船内の仕切りや制限区域内の動線についても、C I Qや国交省の御理解を得ながら早期実現を目指し、努力をしまいる所存でございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 1番、坂本充弘君。

○議員（1番 坂本 充弘君） まず、1点目の古里3差路でございますけれども、ここは昨年に移転を済まされた方もおられます。それから1年が経過をいたしましたので、市長も一生懸命取り組んでおられると思いますけれども、先ほど申しましたように、車の往来が非常に増えております。

そういうことで、危険な状態が続いておりますので、できるだけ早い対応策、着工にこぎつきますように、全力で努力をしていただきたいと思いますと思っております。

それから、2点目の古里岸壁につきましても、比田勝港の整備が着々と進んでいるわけですが、ここも時間的には何年もかかるということが予想されます。漁にとりましては、すぐにはできないとは思いますが、できるだけ早い処置をやっていただきたいと思います。

それから、3点目の海水浴場につきましては、これは熱射病にかかると、非常に生命にも危険な状況に陥っていきます。新しい屋根つきの休憩所が欲しいわけですが、今のところはグラウンド側についているわけですね。それで、トイレの前あたりに近いところにできればいいとは思いますが、その点、市長のほうはどういう考えをしてあるか、そこだけお尋ねをしたいと思えます。

よろしくをお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほどの答弁の中でも申しましたように、ここは長崎県が港湾の海岸環境整備の一環で整備した公園でございます。そういう関係で、今、対馬市のほうが県のほうから管理委託を受けて、実際に日々の管理をしているところでございますけれども、整備関係につきましては、また県のほうに相談をしまいたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 1番、坂本充弘君。

○議員（1番 坂本 充弘君） わかりました。その点につきましても、よろしくお願ひいたします。

4点目のジェットフォイルでございますけれども、これは比田勝港からの航路が途絶えてかな

りになるわけですね。対馬北部の住民にとりましては、本当にこの航路に思いを寄せているわけです。

今まで、搭乗の人数が少ないということもありましたけれども、ぜひ、国会議員の先生も御尽力いただいておりますので、何とか協議を前向きに持って行っていただいで、早急な結論が出るように取り組んでいただきたいと思っております。

スケジュールが何回ぐらいの協議で終わるかわかりませんが、国際航路になっておりますので、難しい状況の話合いがいついっばい出てくると思います。市長のほうの予想としてはどれぐらいの協議期間が必要であるか、予想としてわかる範囲内でするので、お答えができるならば、スケジュール関係を教えていただきたいと思っております。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） ジェットフォイルの混乗につきましては、国内でもこれまで事例がないといったようなことで、先ほども申しましたように、船の中での混在、そしてまたいろいろな麻薬等の受け渡しといったような課題が山積している状況でございます。

現在、それらを一つ一つ解決しながら、九州郵船、そしてJR九州、そして九州運輸局を含め、そういう中で協議を重ねているところでございまして、市といたしましてもできるだけ早い時期に実施の方向に向けて進めてまいりたいというふうに考えているところでございますけれども、ここでいつということは、そういう状況でございますので、なかなか何日ぐらいということには言えるような状況ではないということでございます。

ただ、先ほど申しましたように、私といたしましても、できるだけ早い時期にこれを実現させてまいりたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 1番、坂本充弘君。

○議員（1番 坂本 充弘君） 市長のお答えを、ぜひ実現に向かって努力をしていただきたいと思っております。対馬北部の住民もそれに期待をしておりますので、できるだけ早い機会での実現にこぎつけますようによろしく願いたします。

今回の質問内容の4点が大体終わりましたけれども、少し時間がありますので、先ほどの二、三日前の雨が降ったときのそれを告知をしておりますけれども、ちょっとお尋ねをしたいと思っております。できる範囲で結構です。

古里の3差路と、そして花海荘の上がり口の3差路、あそこの道路の側溝、そして比田勝の神社前あたりの側溝ですか、その辺が雨水があふれ出したという話を聞いております。正確な場所はその辺の市民の方に聞いてみないとわかりませんが、これぐらいの一時的に集中的に降りますと、小さい側溝は水があふれてくると思いますので、その辺も事前に災害が起きないように、もう一回、調査していただいで、対応策ができるものであればやっていただきたいと思っております。



おります。

これで、きょうは時間が余りましたけれども、今回の私の質問をこれで終了させていただきます。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、坂本充弘君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩をいたします。再開を10時50分からといたします。

午前10時35分休憩

午前10時50分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） 豊玉町出身、新政会の長郷です。今回は、第2回目の質問をさせていただきます。

質問に入ります前に、さきに行われました子ども議会、なかなか有意義なものであったと理解をしております。傍聴させていただきましたが、子供たちの思いが詰まった1日だったと考えております。

くしくも、私が今回質問の要旨に上げている部分も、その中で出たように感じております。子ども議員さんに負けないように頑張っていきたいと思っておりますので、ひとつ皆様の協力をよろしくお願い申し上げます。

では、通告に従いまして、2点、本日は質問させていただきます。

まず、1点目が民泊の推進についてということでございます。

御承知のように、民泊は今営業されている方もあられるわけですが、私が考えるには、我々のふるさとである対馬には、歴史や文化、自然環境といったフィールドがいっぱいあります。そして、大陸文化との交流の場所でもあります。そういった豊富なものが我が市にはあるわけですが、果たしてそれを私たちはうまい具合に活用できているかという視点に立って考えてみました。

交流人口の拡大とか、宿泊施設の拡大とか、いろいろ言葉として話としてはいっぱい出てきていますが、果たしてそれを推進するにはどのくらいの経費とどのくらいの時間が必要なんですかという問いかけをしてみたところ、大型ホテルを簡単に誘致するのは難しいだろうと、金額面、運営面、そういったものを考えるに、私は民泊をもっと推進していいんじゃないかという思いに立っているところです。

民泊というのは、今は旅館業法に基づく営業しかできませんけども、これは閣議決定、成案を